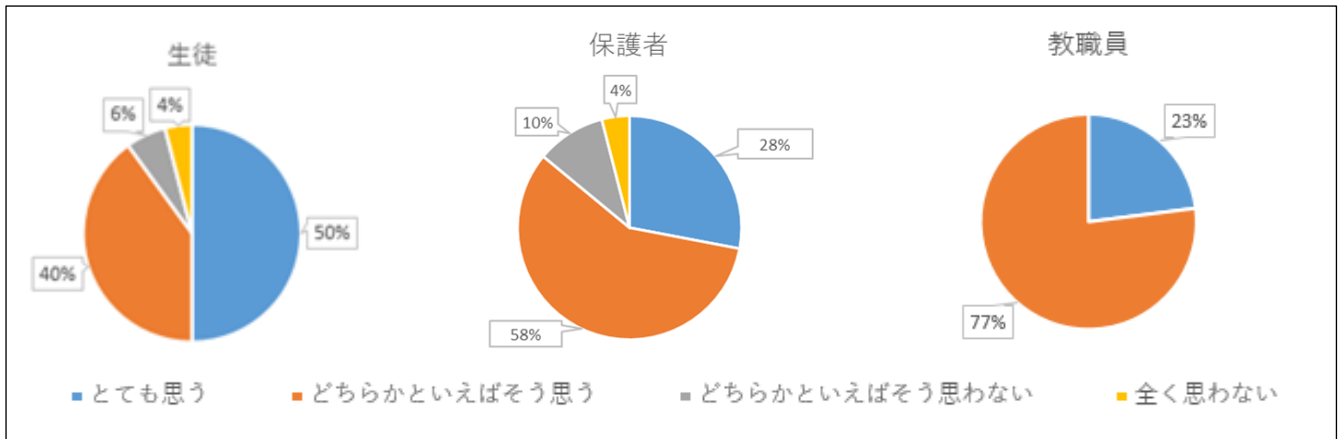


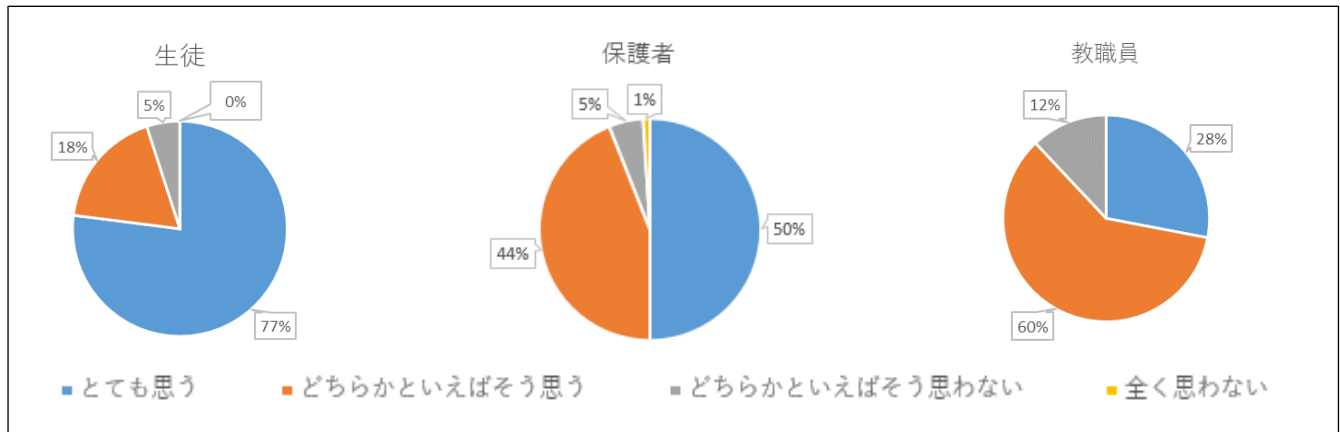
1 生徒は安定した心で登校し、目標をもって楽しく生活している。



生徒・保護者・教職員ともに、「とても思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が高く、昨年度と同様、満足度が高い結果になった。

今後も、保護者が安心して送り出せる学校、生徒にとって落ち着いて過ごすことができる居場所になるよう環境を整えていく。

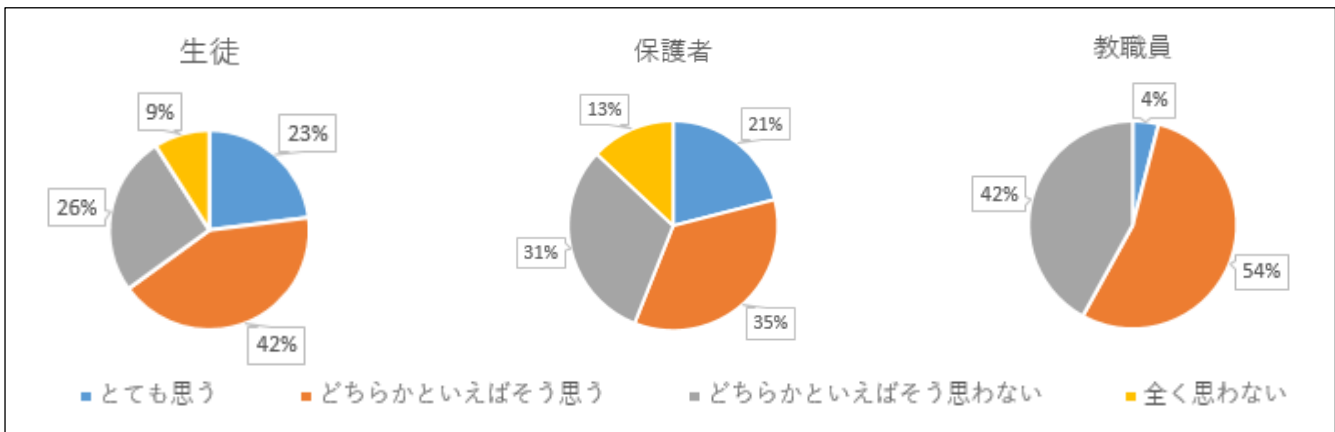
2 生徒は、タブレット（ICT 機器）の操作や学習に抵抗なく取り組んでいる。



保護者・教職員は、昨年度と変化はなく、「抵抗なく取り組んでいる」と感じていることが分かる。生徒は、昨年度に比べ、「抵抗なく取り組んでいる」と感じている割合が20%増えた。

ICT 機器の普及に伴い、生徒にとって、タブレットは身近なものになってきている。全ての生徒の可能性を引き出すためのツールの一つとして、これまでの実践と ICT との最適な組合せを工夫していく。

3 生徒は、意欲的に家庭学習に取り組んでいる。

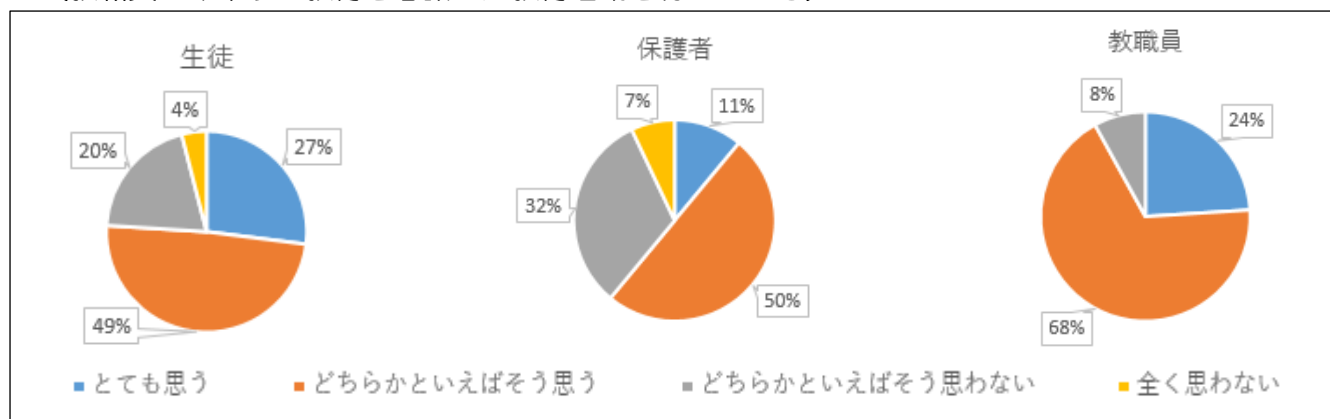


生徒・保護者・教職員の、「どちらかといえばそう思う」が一番高い割合になっている。生徒・保護者の数値が似ており、家庭学習への取り組みに対する捉えにほとんど差はない。

家庭学習は、学習習慣と学習内容の補充であり、教職員は個に応じて導くとともに、生徒の意識向上を図っていく。また、保護者には、生徒を支えてもらうよう協力を依頼していきたい。

4 生徒は、学校生活を通して、将来の生き方・働き方等を考える力が身についてきている。

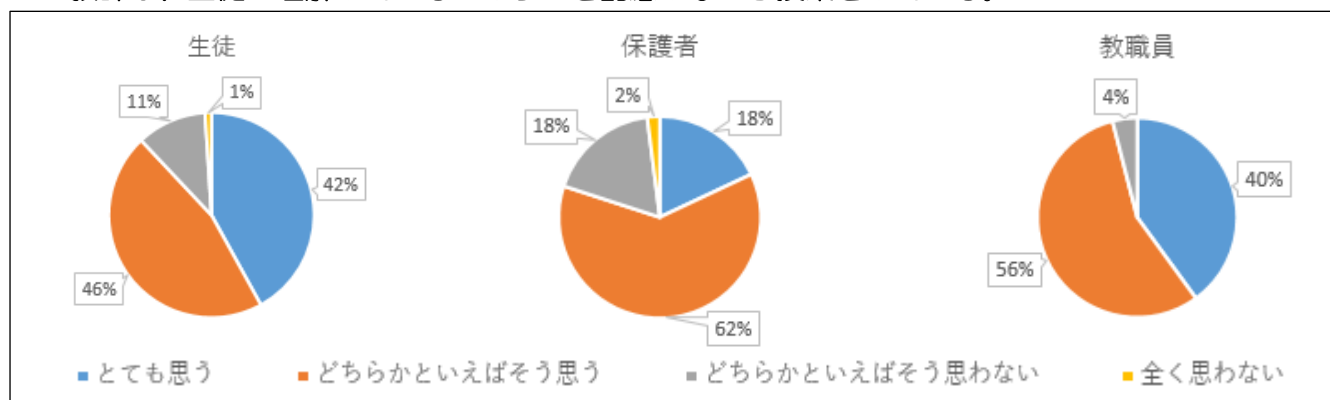
(教職員：キャリア教育を意識した教育活動を行っている)



92%の教職員が、「とても思う」「どちらかといえばそう思う」と、キャリア教育の指導について肯定的に振り返っており、それを受けて生徒・保護者の肯定意見も過半数を超えている。

引き続き、教育活動の明確なねらいが生徒・保護者に伝わり、同一方向に進んでいけるよう、これまで以上に進めていく。

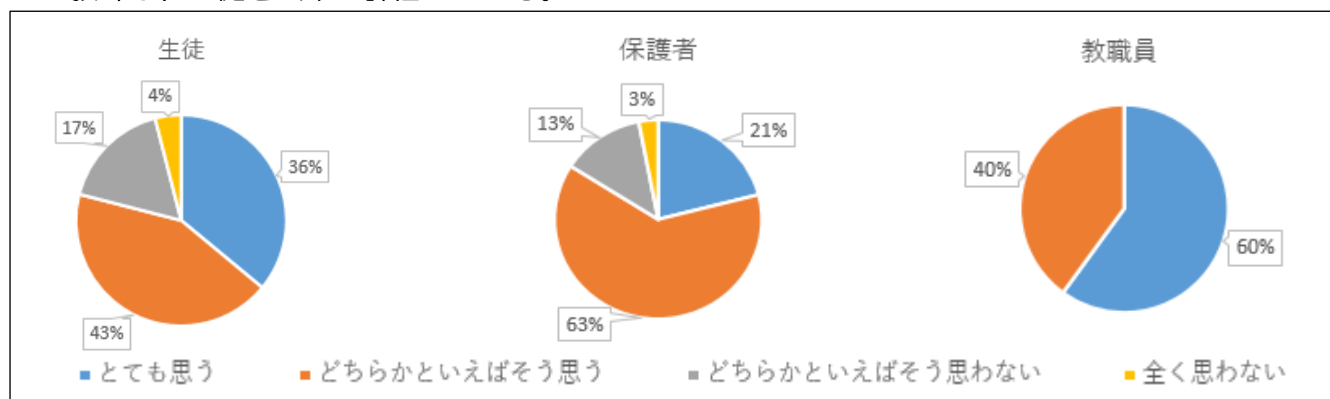
5 教師は、生徒が理解しているかどうかを配慮しながら授業をしている。



「とても思う」「どちらかといえばそう思う」において、昨年度と比べると、生徒・教職員の割合に大きな差はなかったが、保護者の割合が3%増加した。

二者懇談や三者懇談、学年だより等を通して、生徒の学習面における情報提供を丁寧に行っている証明にもなった。今後も、きめ細やか配慮、個に応じた指導を継続していく。

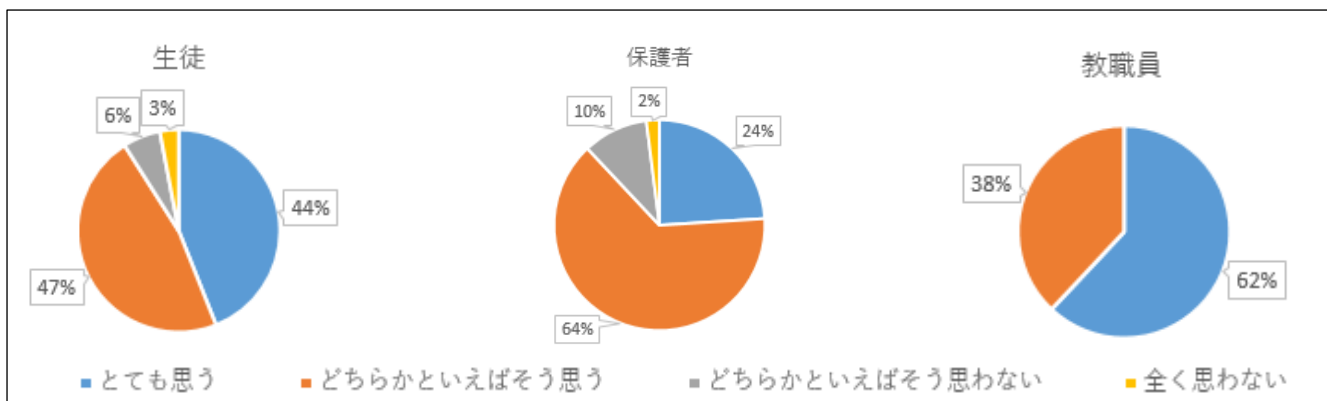
6 教師は、生徒を公平に評価している。



「とても思う」「どちらかといえばそう思う」において、昨年度と比べると、保護者は6%、教職員は4%増加したが、生徒は、79%で7%減少した。

学習面、生活面ともに、多様化する生徒の特性を考慮し、教育目標や指導目標を明確に示しながら共有していきたい。また、生徒・保護者の声に寄り添いながら支援・指導を目指したい。

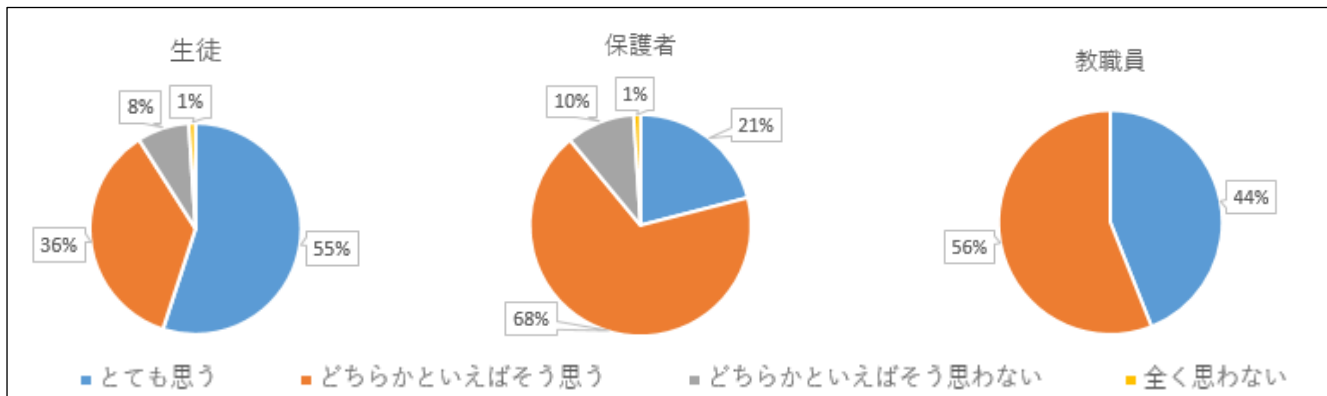
7 相談や悩みについて、教師は適切に応じている。



昨年度とほぼ変わらない結果であった。ただ、「とても思う」に着眼すると、教職員が6割であるのに対し、生徒が4割、保護者が2割と差が見られた。

「適切」の捉え方に違いがあること、また、生徒や保護者の受け止め方が違うことを理解したうえで、設問1と同様に、安心して通わせられる学校、通いたい学校づくりを目指していく。

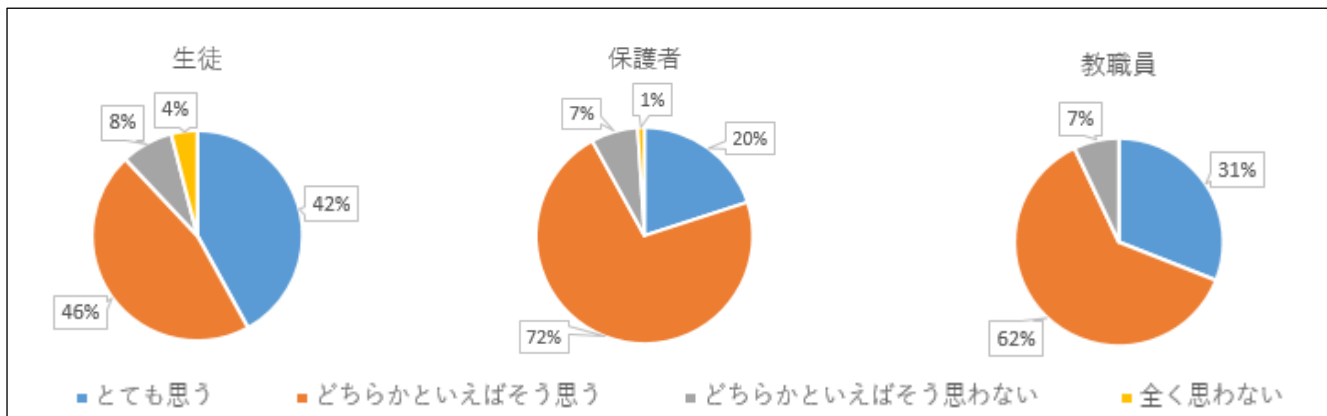
8 いじめのない楽しい学校（学級）づくりに努めている。



生徒・保護者・教職員ともに、「とても思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が、昨年度よりも上がった。しかし、「とても思う」に着眼すると、生徒と教職員に比べ、保護者は2割に留まった。

設問7と同様に、安心して通わせられる学校を目指し、日頃から生徒観察やコミュニケーションを大切にすると同時に、教職員間の情報交換を活発にし、たくさんの目で生徒を支援していく。

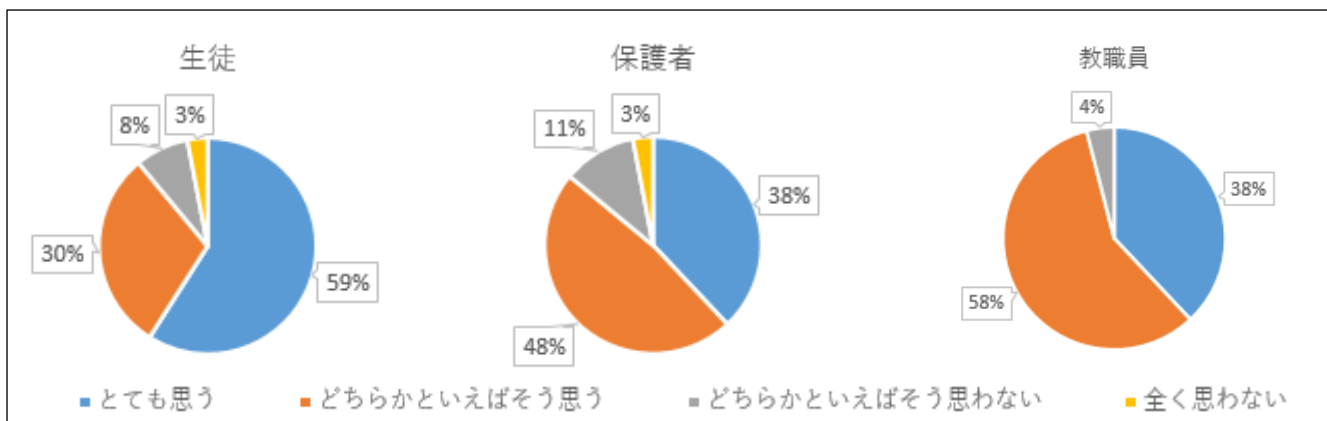
9 学校は、校内の美化に積極的に取り組んでいる。



「とても思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が、昨年度よりも、生徒は6%、教職員は24%上がった。保護者の割合は、ほぼ変わっていない。

老朽化が進み、故障や雨漏り等の問題はありますが、生徒の安全を第一に考え、早急に対応することで、古さの中にも居心地の良さを生み出せるよう、今後も学校全体で環境整備を行っていく。

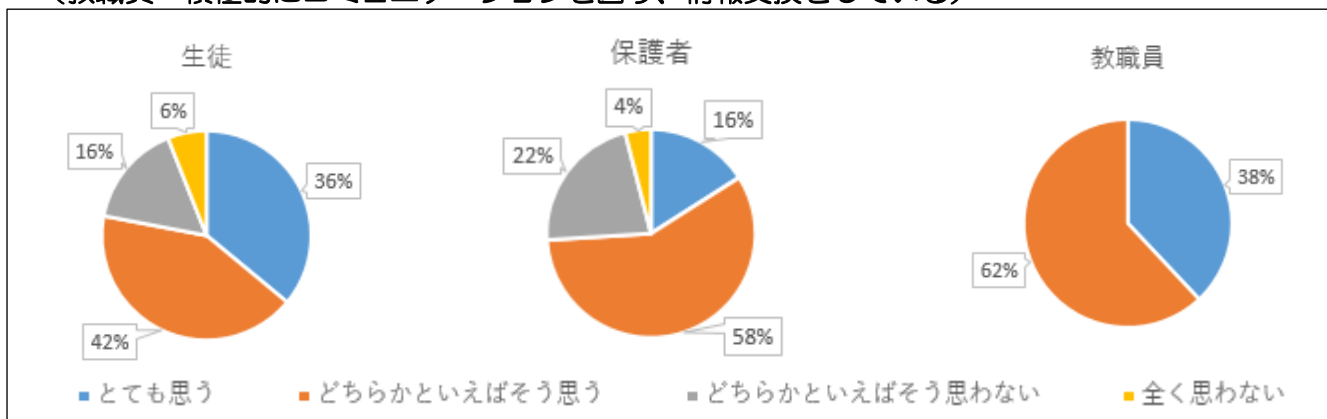
10 部活動は、生徒にとって充実した活動になっている。（所属している人のみ）



「とても思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が、生徒・保護者・教職員ともに、少し上がった。従来の部活動の在り方が見直され、活動時間の縮小が進んでいる。活動時間や活動内容の工夫に応じて、生徒自身が限られた中で明確な目標をもって取り組んでいることが分かる。今後も、生徒の主体的な活動になるよう工夫改善していく。

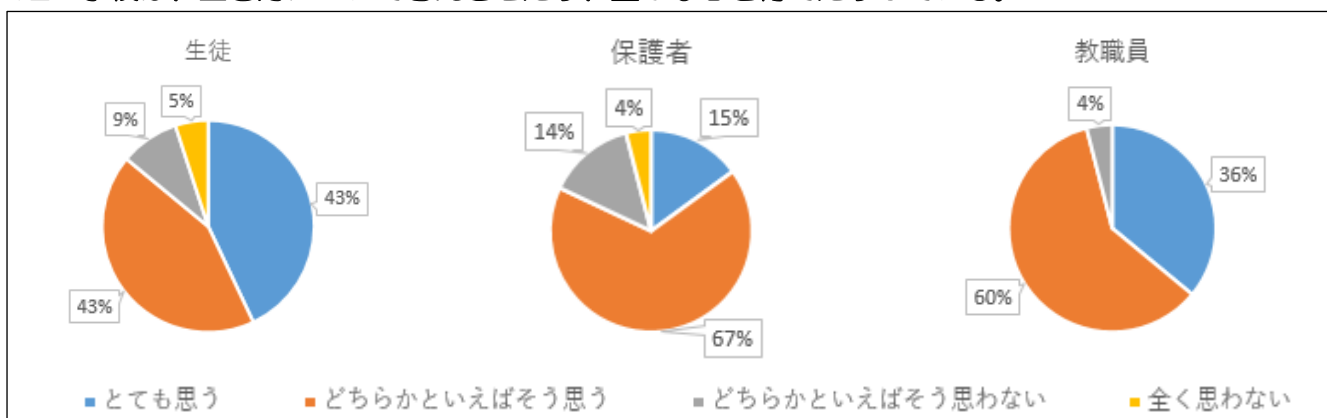
11 学校と積極的にコミュニケーションを行っている。

（教職員：積極的にコミュニケーションを図り、情報交換をしている）



「とても思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が、教職員が100%であるのに対し、保護者が74%、生徒が78%と差が生まれた。ホームページや学年だより、懇談等を充実させるだけでなく、情報提供が一方的にならないよう考慮し、生徒や保護者の声を拾うためにも、今まで以上にコミュニケーションの充実を図っていく。

12 学校は、生き方について考えさせたり、豊かな心を育てたりしている。



「とても思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が、昨年度とほぼ変わらない結果になった。しかし、生徒・教職員の「とても思う」の割合に対し、保護者の15%は、重く受け止める必要がある。特別の教科道徳の時間やキャリア教育を充実させる中で、人との関わりを広げ、豊かな人生を切り拓くことができるよう、新しい時代の学校教育を実現していく。

【結果と考察】

- ・（設問１）「生徒は安定した心で登校し、目標をもって楽しく生活している」において、生徒・保護者・教職員ともに、８割以上が高評価だった。しかし、（設問４）「生徒は、学校生活を通して、将来の生き方・働き方等を考える力が身につけてきている」（設問８）「いじめのない楽しい学校づくりに努めている」（設問１２）「生き方について考えさせたり、豊かな心を育てたりしている」のように、一歩踏み込んだ具体的な設問になると、「とても思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた割合が低くなった。

このことから、２つのことが考えられる。１つは、『安定した心』『目標をもって』『楽しく』のキーワードに対する判断基準や満足度が個々に違うということである。もう１つは、生徒・保護者の学校への期待度が大きいということである。
- ・ 生徒・保護者のアンケート結果と教職員のアンケート結果の差が大きい設問が多かった。特に、（設問５）「教師は、生徒が理解しているかどうかを配慮しながら授業をしている」（設問６）「教師は、生徒を公平に評価している」（設問７）「相談や悩みについて、教師は適切に応じている」（設問８）「いじめのない楽しい学校（学級）づくりに努めている」において、教職員は「とても思う」「どちらかといえばそう思う」とほぼ１００％である。ところが、生徒・保護者で「どちらかといえばそう思わない」「全く思わない」と答えている割合が、１０％程度いる。つまり、教職員と生徒・保護者のコミュニケーションや情報共有が、一方通行になっているのではないかと考えられる。
- ・ 設問によって差はあるが、全体的に生徒・保護者・教職員の「とても思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が高かった。このことから、生徒は、ある程度満足した学校生活を送っており、保護者も学校に好意的だと推測できる。また、教職員が自信をもって職務に専念していることが分かる。

【改善策（今後の取組）】

- ・ 今回、生徒・保護者・教職員のアンケート下段に、自由記述欄を設けた。

生徒は、普段伝えられない思い、「～してほしい」といった願望、そして「～していきたい」という意気込みを記入していた。生徒の思いや意見を尊重し、家庭・学校がこれまで以上に連携を図りながら、生徒一人一人の健やかな成長を支援していく。

保護者からは、「子どもの学校生活の様子が分からないので、答えづらい設問がある」という意見が出た。学年だより・保護者メール・ホームページによる情報配信をこまめにしていくと同時に、二者懇談や三者懇談の場を活用したり、個に応じた声かけを日常的に行ったりしながら、双方向のコミュニケーションを図っていく。

教職員は、アンケート結果や自由記述欄を真摯に受け止め、指導方法や授業内容、個々との関わり方を工夫改善し、常に生徒・保護者の伴走者として教育活動を進めていく。
- ・ 家庭の事情、生徒の姿が多様化し、学校が直面する課題も複雑になってきている。これまでの教育のよさを受け継ぎ、立田中学校の校風を大切にしながら対応していきたい。そのためにも、学校は、教職員が心身の健康を損なうことのないよう業務の質的転換を図り、生徒や保護者に接する時間を十分に確保し、総合的・持続的に対応することができる環境を作っていく。